

令和 5 年度第 2 回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和 6 年 2 月 2 6 日 月曜日 午後 1 時 0 0 分～午後 3 時 3 0 分

場 所：洞爺湖町役場 3 階 第 2 委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1 号委員 (学校教育)	西村 雄一	×	4 号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	×		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	○	5 号委員 (公共的団体)	福島 正和	○
2 号委員 (社会教育)	木村 省平	×		秋山 伸吾	×
	泰地 ひとみ	×		田伏 ひとみ	○
	京谷 常美	×		三浦 和則	○
	宍戸 一江	×		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	○	6 号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3 号委員 (保護者)	白井 隆子	×		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	×
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	○			
	傳 尚邦	○			

（事務局）：教育推進課 高橋課長

社会教育課 角田課長

企画財政課 藤岡課長

○高橋教育推進課長

お忙しい中お集まり頂きましてありがとうございます。ただいまから令和 5 年度第 2 回洞爺湖町教育行政審議会を開催いたします。それでは、会議次第に沿って進めてまいります。鈴木会長から一言ご挨拶をお願いいたします。

○鈴木会長

11 月に続いて 2 回目ということで、お忙しいところお集まり頂いてありがとうございます。この後、視察ということで現地に行っているいろいろな町内の教育に関連した施設を視察いただき、ぜひ忌憚のないご意見をお話し頂ければと思います。建物の不備であるとか、なかなか厳しいだとかって話しも先ほど教育長から聞いております。やはり、洞爺湖町の子どもたちのために、どういうものを残しながら教育を充実していくのかという視点では、いろんな角度から皆さん方の立場を踏まえてお話し頂ければと思います。

○高橋教育推進課長

ありがとうございます。ここからは鈴木会長の進行でよろしく願いいたします。

○鈴木会長

手元に第2回の議案があるかと思えますけども、次第という形で書いております。

まず、会議次第の3ですけども、本日、視察も含めてということで、この会議の目標（めあて）について事務局のほうから説明を頂きたいと思えます。

○高橋教育推進課長

それでは議案書2ページ目をお開き頂きたいと思えます。事前にメール等でご確認頂いていると思えますが、本日2回目の会議の目標でございます。

次の3点について共通認識を持っていただこうと思って考えているところでございます。1点目が教育施設関連。今後、将来にわたって維持管理していくためには、多額の経費と施設の老朽化の状況から大規模な改修、または建て替えが必要になってくるというようなことの認識。これについては、現地視察やその後開きます会議で教育関連施設の現状、公共施設等総合管理計画などから認識を深めていただこうというふうに思っております。

2点目は、全国的な人口減少に伴い、当町の人口も減少し、教育関連施設の利用者、児童生徒も含めて減少するというようなことが見通しとしてあります。こちらについては、洞爺湖町の将来人口について認識を深めていただきたいと思いますと思っております。

3点目は教育関連施設。これから視察する場所、写真で見るものも含めて、全て将来的に残して維持管理していくということは、町の財政的には現実的ではないというようなこと。これは町の財政状況というところで認識を深めていただきたい、というふうに思っております。

この3点の認識を共通して持っていただいて、洞爺湖町として教育施設の在り方をどうしていくのか、というようなことの協議を深めていっていただいて、次回以降の会議に繋げていきたいと思ひ、今回はこの3点の目標の理解を図っていききたいというふうに考えているところでございます。説明は以上になります。

○鈴木会長

ありがとうございます。

今事務局のほうから、本日の会議の目標（めあて）が3点あるということで説明がありました。一つは、経費という予算的な部分と、あと、かなり古い建物もあるということで維持管理の部分で今後どういうふうにしていこうかという、その改修も含めて、いろいろと皆さん方に見ていただきたいということでご覧頂ければというふうに思ひます。

それから、二つ目には人口減少。これはどの地域も同じなのですけども、そういう人口減少に伴ってこれからの町民であるとか、児童生徒の数も含めながら、教育関連施設のいわゆる役割といたしますか、その辺りが二つ目に大きくあるのかなと思います。

そして三つ目に、これら全てを維持管理するのが難しいと事務局よりありましたから、やはり、どういうポイントで維持管理していくのか、このあたりもぜひ皆さん方それぞれの立場からですね、ご覧頂きながら、この後戻ってきて、いろいろとお話できればなと思いますので、この 3 点についてということで、まず共通認識を持っていただきたいと思います。

これまでのことで、何か確認等ありますでしょうか。

《「なし」の声》

それでは、そういう形でこの後、視察という形になると思いますけども、

次第の 4 ですね、会議日程ということで、この後の流れについて、事務局のほうからよろしくお願い。

○高橋教育推進課長

それでは、早速現地視察に行きたいと思います。

外にバスを用意しておりますのでそちらのほうにお戻り頂きたいと思います。

《施設視察》

○鈴木会長

お疲れさまでした。

この後、事務局からの資料に基づいて説明に入りたいと思います。

それでは、お手元の会議次第の 2 ページ目をご覧頂きたいと思います。

(2) 教育関連施設の現状についてという項目がありますけども、事務局から説明をお願いいたします。

○高橋教育推進課長

それでは、議案 2 ページ目、(2) 教育関連施設の現状についてでございます。

施設の老朽化状況は、現地視察で理解頂けたかと思っております。あと、本日行けなかった場所については、学校教育と社会教育に分けて写真を配付してございます。お手元に写真が配付されていると思いますが、そちらでご確認をしていただければというふうに思います。今日は写真の説明は省略をさせていただきます。

ここでは、各施設の維持管理コストや利用状況について、現状を説明申し上げます。別添資料で教育関連施設一覧がお配りされているかなというふうに思いますけども、この資料の説明をさせていただきたいと思います。この表は、各施設での建築年とか、経

過年数、年間の維持管理経費、社会教育施設では 1 日の平均利用者数、一番右には今後の施設の方針を記載してございます。今後この施設をどういうふうにして行こうかという現状での考え方ということで記載をさせていただいてございます。次のページからは、その施設ごとの個票になります。例えば、1 ページ目は虻田小学校で、それぞれさらに詳しく書いているような個票になってございますが、この中のものを抜粋してまとめたのが表 3 の資料という形でご覧頂ければと思います。本日の説明はこの資料の大きいほうで説明をしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

この資料、A3 のもの 1 枚を見ていただきますと、耐用年数を経過している施設というふうになりますと、3 番目の洞爺小学校が 57 年、虻田中学校が 57 年経過しております。対応年数も、34 年、47 年のところがこれだけ今経過しているというようなことになります。あと 8 番目の虻田読書の家も 44 年経過しています。22 年の耐用年数の倍近く経過していると。あと 10 番目の母と子の館、こちらは現地見ておりませんが、34 年のところ 36 年経過していると。11、12、13 番、虻田体育館学校水泳プール、洞爺湖町プールと、12 番の洞爺学校水泳プールというのが洞爺で見たプールになります。これらも、それぞれ経過年数、耐用年数を大きく上回っているというような状況になっております。15 番目の郷土資料館、16 番目の洞爺湖芸術館についても、耐用年数を大きく経過しているというような現状にございます。

では、耐用年数を大きく上回っているのですけれども、これらの施設について、これまで耐用年数を延長するような大規模な改修、躯体を直すとかですね、そういったような工事というのは一切やっていません。屋根の雨漏りを直すとか、そういう維持管理的な経費での改修しかやってないというのが現状になっております。また、維持管理経費でございますけれども、令和 4 年の実績という形で出してございます。これらの施設合計が 1 年間で 167,000 千円、これは人件費や燃料費を含め、これだけの経費がかかっている施設となっております。5 番目の洞爺中学校を見ていただきますと、学校の中でも 24,000 千円と、維持管理経費がちょっと大きいのですけれども、やはり電気暖房、オール電化という電気代の経費が年間 10,000 千円単位かかっているという現状でございます。

1 日の平均利用者というところでございますけれども、これは社会教育施設関連に限った説明です。1 番多いのが、虻田体育館の 1 日平均利用で 51 名。1 番少ないのは、学校水泳プールとなっておりますけれども、これは閉鎖している関係から少なくなっておりますので比較になりませんが、8 番目の読書の家が 10 人という形で、1 番低い利用状況になっているという現状でございます。さらに、1 番右側の今後 40 年間の施設の考え方といったところ。これは後ほど説明にも出てきますけれども、公共施設総合管理計画というものに基づきまして方向性を示しております。それに基づいて、現状の学校教育施設の考え方について記載してございます。

簡単に説明させていただきますけれども、学校施設でいえば虻田中学校というのがご

ざいます。4 番目の中学校なのですけれども、こちらはもう 57 年経過しておりまして、かなり老朽化が著しく、この学校については令和 8 年度を目途に、虻田小学校に移転するという計画を教育委員会で持っています、今後、協議を進めて行こうというふうに思っています。そういった形で、この学校の方向性を持っているというようなことでございます。あと、6 番目と 7 番目、学校給食センター、これも虻田と洞爺、2 か所ございます。こちらは、統合するという話しを進めていたのですけれども、当初見込んでいた規模よりかなり高額な建設費が見込まれるという形で統合を見送るという協議をしているところでございます。

8 番目以降の社会教育施設ですが、当面は単独でいこうとは思っているのですけれども、将来的には一つの複合化施設としてまとめて行きたいというような考え方も持っているところでございます。ただし、具体的に何と何をくっつけてどこにどうしようか、といったような、プランはないのですけれども、そういうような考え方を持っているというところでございます。

現在、明確な教育委員会としての方向性があるのは、虻田中学校は虻田小学校に移転する、給食センターの統合はいろいろな条件があり見送りをする、教育施設全体としては、どうしていったら良いかというところを、皆様方のご審議を頂いた上で、方向性の協議を地域の方々と進めていきたい、というふうに考えているところでございます。

議案書に戻っていただきまして 3 ページ目になります。こういった施設の状況を踏まえまして、町内に同じような施設がどのぐらいあるのかというようなことを、隣町の状況を含めて示した表がイの類似施設の状況、というふうに記載してございます。

体育館でございますけれども、町内には虻田体育館と母と子の館体育館というものがございます。それ以外に、学校の体育館も開放として一般的に開放してございますので、体育館としては 7 個あるというような形になります。プールについても、学校の水泳プールと町民プールと 2 か所あります。民間ホテルのプールもあるのですけれども、そちら今はやってないようですので使えない形になります。図書施設としましては、先ほど虻田読書の家を見てきたのですけれども、その他にみずうみ読書の家、洞爺総合センター図書室、これはほかの公共施設の中に含まれている施設ですけれども、これだけの施設があります。あと、学校にもそれぞれ図書施設として、7 か所図書施設が点在しているという状況です。その他にも母と子の館ってところがあるのですけれども、ここにも図書が置かれているというような形になっており、ばらばらな状態になっているような形です。給食センターについては、虻田と洞爺にそれぞれ 1 か所ずつ給食センターがあります。集会施設については、虻田ふれあいセンター、洞爺湖文化センター、洞爺総合センターと、それぞれ社会教育的な意味合いの施設、観光的な意味合いの施設、文化的な意味合いの施設という形で、それぞれ設置目的は異なるのですけれども、皆さん一同を介して集会をやったり、何らかのイベントをやったりする施設としては、虻田、温泉、洞爺地区に 1 か所ずつあるというような現状となっております。最後に、町外へ視点を

向けると、体育館でいえば伊達に総合体育館というかなり規模の大きい立派な体育館もあります。プールについてもプール指導者がついたプールもあると。給食センターについては、食育センターといって、立派な給食センターもできているというような状況になってございます。

このように、町内に限っても同じような施設というのは重複しているというような状況もあります。この辺も現状として認識していただいた上で、今後の協議に当たっていただきたいと思ひまして、類似施設の現状とそれぞれにかかるコストといったような視点で今回資料を出し説明をさせていただきました。以上で（２）の教育施設の現状について説明を終わらせていただきます。

○鈴木会長

ありがとうございます。

事務局のほうから、A3判の大きな資料をもとに、教育関連施設の現状ということで、耐用年数や年間の維持管理の予算であるとか、今後の方向性みたいなものも右端のほうにあります。町内施設をいろいろ見てまいりましたけども、その視察のことも含めて何か確認したい点、お考え、または感じたことなどがあれば、意見を出していただければと思いますけども、いかがでしょうか。

○委員

アイヌのウトウラノ。あれは社会教育施設に入らないものですか。

私は入ったことがないのでどういう施設かわからないのですが

○高橋教育推進課長

ウトウラノは福祉施設という位置づけになっています。いろいろ使ってはいるのですが、未来塾とかいった形で教育としても使っているのですが、位置づけとしては教育委員会が所管しない施設です。

○委員

今の施設を考えるのはもちろん大事ですけど、私も把握してないですけど、虻田地区にある新しい建物を、どう上手く使っていくのか、ここだけ建て替えてもっていうか、お金は違うところにいっぱい使っているわけだから、福祉というふうに区切らないで使えればいいなあと思います。

○高橋教育推進課長

後ほどの説明でも出てくるのですが、公共施設等総合管理計画という洞爺湖町全体の公共施設の管理計画の冊子を今回お配りしております。その中では、全ての集会施

設というような形で、全部載ってくるような形になっておりますので、後ほどそこは個別の形の話の中で出てくるかと思います。以上です。

○鈴木会長

施設を効果的に使うという視点も、これからどういうふうにして整理していくのかというあたりの関連にもあるのかなと、今委員のほうからも話がありましたので、ぜひそういう視点も含めて、今の資料も含めてですね、何かお考えだとか、あればお出し頂きたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○委員

施設管理で 160,000 千円ほどの予算をかけているということで、これだけ年間の維持費がかかるということを事務局サイドはその辺りをどのように受け止めていますか。

○高橋教育推進課長

かなり大きなウェイトを占める経費にはなっているというのが現実のところでございます。後ほど、財政状況の中でも課長のほうから話があると思うのですが、ただ、確かにお金がかかるのですが、削られないところでもあると。子どもたちが通っている学校や施設ですので、その辺は直すところは直さなければならないですし、必要なものは必要だということです。ただ、現実としてこのお金というのが、当然原資は税金でございますので、そこから出ているというようなことで、皆様方も同じような認識を持ってもらいたいなと思って、今回こういう細かい資料でございますけれども、出させていただいたというような意図で今回お示しさせていただきました。

○鈴木会長

洞爺中学校の先ほどのオール電化の電気も 24,000 千円もかかっているという、その暖房費だけで。そのことも考えると、なかなか厳しい。潤沢な予算ではない中で、ある程度切り詰めなければという、その辺りの維持管理コストも含めて、何かざっくばらんにお出し頂ければと思いますけれどもどうでしょうか。

○委員

多分委員の方皆さんが思っただけだと思うのですが、洞爺中学校、数字で見ても 10,000 千円ぐらいほかの学校と比べて大きいですね。節約という部分じゃなくて、施設そのものの光熱費がかからないような仕組みに変えとか、そういう修繕計画とかってあるのですか。それがもしできて、10,000 千円を年間節約することができるシステムにすれば 10 年で 100,000 千円、それぐらいのコストに見合った投資はできるという気はするのですが。1 番最初にもっと早く気がついて、10 年前にやっていたらもっと

と儲けられたという気がするのですけど。

今この計画についてはどうなのでしょう。光熱に係る改修というのは。

○高橋教育推進課長

今後オール電化をやめて、灯油の暖房とかですね、そういったようなことに切り替えるというようなことについて、過去にそういう協議がされたかというのは押さえてないのですけれども、去年、私が教育委員会に来てからは、そういったこともできないかというふうに検討したこともございます。業者にどのぐらいかかるかというようなこともちょっとお話をしたのですけども、簡単にできるような工事じゃなく、かなり大規模に形になってしまうというようにお話がされて、まだどうしたら良いか、という形で考えているところで、ここに修繕で大きなコストをかけるのが今良いのか、それとも、学校施設の老朽化全体を含めて、どういうやり方をして行ったほうが良いのかというようなことなど、いろいろ考えていかなければならないと。今回のこういう審議会の中で協議頂ければと思っております。具体的にあそこの暖房を、灯油に切り替える計画は今持ってないです。

○鈴木会長

どうでしょうか。洞爺中学校は 43 年経っていますけど、その上のとうや小学校は 57 年。そういうような年数の部分もあつたりとかつていうのもありますけども、どうでしょうかね。

○委員

例えば洞爺小学校であれば、耐用年数が 34 年で、長寿命化の改良をしながらも、10 年、15 年先に建物を本当に使っているかということ、現実的じゃない。いつかそれを決断する時が来るっていうのがあると思うので、例えばその、この建物が建って年数がどのくらい経って、実際に子どもの人数も減ってくる、もう何となく傾向が見えるわけじゃないですか。その中で、減っていく子どもの人数を見ていくと、今お話があった洞爺中学校も本当にあと何年間この 10,000 千円を使い続けるのか、年数はここまでだな、というのが見えてくるような、そんな表があるといいのかなと。1 年 1 年、どこまでいけるかなという形の検討になってしまうと感ずます。そこで、そういう表が欲しいなとちょっと感ずます。

○高橋教育推進課長

施設が明確に使えなくなる時期っていうものが、人の流れでもっていくと、子どもの数が減っていくっていうので、何人になったら統廃合しましょう、というような計画は町として提言は持っています。これもこの後説明しようと思うのですけども、そのとお

りにいけば、まだちょっと先まで時間はあるのですけれども、そういうような表であれば出せないことはないかなとは思うのですけれども。

○委員

今言われた、そのいわゆるシミュレーションできるような、イメージみたいなものがあるとより具体的にもう少しここは先送りとか、ここはかなり厳しいよねとか、あとは子どもの数の状況も踏まえてっていう、多分 10 年 20 年先も予算をずっと継続できるのかとか、そうでもないっていう分もあるとか。この後どうするかっていう、ある程度よりどころというか、根拠にもなるような形になると思うので、その辺りは何か会議の中でも、イメージできるとすごくいいのかなっていう感じがします。

○鈴木会長

維持管理コストとか耐用年数だとか、これからの管理計画との絡みとかっていう形で、考えていかなきゃいけない部分ですけど。他に何か感じるものとかあればざっくばらんにどうぞお話し頂きたいと思います。

○委員

やはり古いことで、洞爺小の先生も言っていましたけど、夏が暑すぎて廊下で勉強をさせるときもあったとか、何かそういうのは、実際に通っている子どもたちがかわいそうだなあと。あと、読書の家ですけど、本当に子どもたちとか住民が使いたくなるような、図書室かなあ、というのを感じましたので、延ばし延ばしの間そのまんまというよりは、今ある現状のものも少し改善していくようなことも、町が教育に対してどういうビジョンを持つかで、どこを削るかとかになってくるのかなと思うので、やはり、こういう方針で進めて行きましょう、みたいな決断をちょっとした方がいいのかなあと思いながら回っていました。何か洞爺のプールも、あれはもうしょうがないなあとか、泳がせてほしいけど、親としては、でも、あそこを残すのはどうだろう、とか思いますし。

○委員

減るっていうのは分かっている。そこはどの市町村もそうです。でも、子どもを維持し、来てもらうような、町にしないと、もっと減るわけですよね。そこで何が大事かって、ハードっていうとやっぱり、すてきな学校がある町はすごく魅力的ですし、ここに住んでよかったなど、子どもたちを呼び込む宣伝にもなる。ビジョンで先ほど、あったと思うのですけれども、子どもを増やす、この町を維持するっていうところの視点でいうと、教育は絶対になければいけないので、それが学校の数がどういうふうになるか、これから考えないといけないのですけど、建てかえるって、簡単に言えばあれですけども、やっぱりソフトを考えながら、ハードの部分は今回、洞爺の小・中学校の維持費の

話もありますけれども、そのランニングコスト等、建て替えたときも、どのぐらいかかるのかっていうのもあるとは思うのですが。洞爺湖町の学校全部が古すぎて、一気に整備はできないわけで、計画立てていかないと本当にまずいんじゃないのかな。虻田小はすごく立派でびっくりしましたが、やっぱりこれも古くなっていくわけですね。お金を使うときは使わないといけない感じがします。

○委員

自分漁業の関係で来ているのですが、虻田中学校のPTA会長でもあります。

ちょっと言わせてもらいたいのですが、今この次のやつ見たらこの統合の話が出ています。虻田中学校と虻田小学校と、今日は皆さん見てもらってないのですが、虻田中学校すばらしくきたない、というかも古いです。古くて、今日は写真でしか見てもらってないのですが、すごく古くて、多分洞爺小学校と同じ年数たっているのですが、とうや小学校よりそれ以上に古いのかなというぐらいです。とうや小学校のサッシであったり、窓枠の外側は直してありましたがアルミサッシになってますが、虻田中学校はアルミサッシじゃなくて、鉄なのかな、亜鉛なのかな、わかんないですが、もう何か隙間があるような古い窓です。今の現状としても、ボイラーが半分止まっています。ここに載ってませんが、校長先生が実費出して、ストーブ買いに行っ教室に置いてくれたりしてやってもらっています。それぐらい古いです。なので、さっきから皆さん言ったとおり、計画立ててやってもらったほうがいいんです、っていう話なんですけど、もう虻田中学校は限界きてます。なので、統合の話も来年再来年ですか、になりますけど、どんどん進めてってもらって、安全な場にしてもらいたいなと思っています。

以上です。

○高橋教育推進課長

そうですね、虻田中学校については、PTA会長さんともいろいろお話しさせていただいて、令和8年度を目途に虻田小学校のほうに移転するっていうような方向性を教育委員会のほうで持ちまして、それも含めて新年度以降はその関係者、虻小だとか洞爺湖温泉小学校も虻田中学校に入りますので、その辺の関係者と地域協議会を立ち上げて、具体的にどういうふうに入れていくのか、当然、使い方とかもございますし、授業のチャイムの時間とかグラウンドの使い方、部活動との併用とか、そういういろんな課題とか懸念される事項が出てくると思いますので、その辺をすり合わせしながら、スムーズに虻田中学校の校舎は対応していきたいなというふうに思っています。

ただ、虻田中学校はそれで、ある程度はオーケーになるのですが、洞爺の学校も古いですし、虻田小学校もこの校舎をずっと使うのであれば、どこかで大規模改修しなければならないというような形の部分もあります。そうすると、洞爺湖温泉小学校の位置づけをどうするだとか、そういういろんな部分の学校の在り方っていうところが今後

出てくるかなと。それと人口減少の話、子どもの数も少なくなってくる。少なくなってくるのに学校 1 校作るのがいいのかどうなのか、他にどういう方法があるのか、というところも、いろいろと考え皆さん方からご意見頂いて、ここで審議頂いて、こういう方向性になるといいんじゃない、というような答申を頂けたらなと思って、前回の会議で、教育長のほうから諮問をさせていただいたというふうに認識してございますので、本当に皆さん方のご意見を頂きながらですね、ひとつ答えをまとめていきたいなというふうに思っておりますので、よろしくお願いしたいと思っております。

○鈴木会長

どうもありがとうございます。

将来的なビジョンでも、実際に学校に子どもたちがいる、という現状認識も踏まえながら、うまくそれをかみ合わせながらというのが 1 番の理想なのでしょうけども、今回こういうふうにしてざくばらんに情報共有したということは、一つ大事なかなと思います。

○委員

見て回ったら、私の体ぐらい学校がなんかちびているっていうか、すごくそう思いましたね。それで、このデータで令和 7 年から老人人口が生産年齢人口を上回るっていうふうになっているんですよね。それを考えた時にね、とうや小学校を見たら、加湿器がないので校長先生が加湿器を買ってきてやっているって、それだと菌の繁殖とかいろんな問題が出てきてるので、それを対処してるんです、というお話も聞いてね。時代は着実に進んでいるから、私たちが若いときに建てた家があるから若い人に贈与しようと思っても、土地はいるけど家は入らないっていう時代。時代っていうか、それだけその学校っていうのはやっぱり私たちの時代は学校中心に地域が繁栄するっていう、そういう基本的な考えで何か学校も建てられているから、自分たちの地域は、自分たちの地域はっていうことで学校がいっぱいあると思うんですよね。だから、その時代の移り変わりをきちっと地域の人にも説明して、時間をかけてね、新しいビジョンというのを作っていったらどうでしょうか。

○高橋教育推進課長

ありがとうございます。当然時代と共にいろいろな保護者の考え方、社会の考え方というのも変わってくるかと思っております。やはり、何よりもそこに住んでいる方々の理解が得られないと進められないと思ってございますので、この審議会ですらという答申になるか分かりませんが、その答申が出されたら、それに基づいて、町として教育委員会として、こういう考え方で行きたいのだけどいかがでしょうか、という協議を始めていきたいなと思ってございます。

○鈴木会長

はい、どうもありがとうございます。これでもう終わっちゃうような勢いなんですけど、まだ資料の説明があるみたいですので、ただいまの議論の中で、将来的にどうするかっていう、その話も出ていますので、次に次第の（３）洞爺湖町の小・中・高等学校における子どもと学校の在り方についての提言について、事務局から説明頂きますので、この説明も確認しながら、また何か委員のほうからあればお出し頂きたいと思います。まず事務局のほう、よろしくお願いいたします。

○高橋教育推進課長

議案書３ページにあります（３）洞爺湖町の小・中・高等学校における子どもと学校の在り方についての提言についてご説明申し上げます。

本日配付した資料の中に、提言書という冊子があるかと思いますが、ご覧いただけますか。

この提言は、平成 25 年 1 月に学校の老朽化を見据え、東日本大震災といったような自然災害など、予測できない状況、こういうものを踏まえまして、子どものよりよい教育環境の整備のため、学校や保護者、地域の方々と構成する会議において、児童生徒数の推計を見据え、小・中・高等学校の適正規模について検討して町に提言を頂いたものという形でございまして、これから学校の適正配置を検討する際には、この基本となる考え方が示されている提言となっております。内容につきまして、1 ページ目から 6 ページ目まではいろいろと現状とかのことも書いている内容となっておりますので、7 ページ目を見ていただきたいと思います。

適正配置を考える視点という形になっております。その中で（１）（２）というのは、省略させていただきます。まず（３）学級数の視点というところを見ていただきたいと思います。適正配置を考える場合には、国でいけばその下のほうに書いてありまけど、小学校であれば、12 から 18 学級、1 学年 2 学級から 3 学級程度。中学校であれば、1 学年 4 学級から 6 学級程度。これを切れば適正配置を考えてください、と国のほうは示しております。ただ、これをそのままやってしまうと、うちの町はもう全て 1 学年 1 学級となっておりますので、馴染まないという形で、独自にこの提言の中で考え方を示してございます。それが 8 ページ目に書いてございます。小学校では望ましい規模、原則として存続する学級規模、最後に原則として統廃合を検討する規模として小学校は 5 学級以下、複式になれば統廃合を検討しましょうというようなことがここで提言としてされております。中学校も同じく、2 学級以下、複式になれば、統廃合を検討していこうというようなことがこの提言で、定められております。これにより、小学校でいけば複式というのは、2 学年 16 名以下、中学校では 2 学年で 8 名以下となった際には、適正規模を配置すると。これは国のほうで基準が決まっておりますので、これ以下になればもう

複式になるという形になってしまいます。このように基準がもう条件として定められてございます。実際に今、複式なのは洞爺湖町の中では洞爺湖温泉小学校だけということになっておりますが、虻田小学校、虻田中学校、とうや小学校と洞爺中学校も、現状では複式ではないですけれども子どもの数によっては今後、可能性としては考えられるというふうになっております。

次に 9 ページ目を見ていただきたいのですが、統廃合を検討するにしても、通学時間という部分も考えて検討してくださいという提言がされてございます。その基準がスクールバスで 45 分程度というようなことの目安が示されております。これに入れなければ駄目というわけではないですけれども、目安としてこの程度をあまり小さい子が長くバスに乗っているというのも教育上よろしくないということで、この程度はできるところで検討すべきではないかというような提言がなされております。現在、そこに書いているスクールバス運行状況は少し古いですが、時間はおおむね短いので 15 分、長いので 45 分程度かけて学校に通っているという現状も併せてございます。

それとあと 10 ページ目のほうにはですね、町や教育委員会が適正配置の方向を示す際には、6 番目のところに書いていますけれども、地域の視点というのも大事です。地域事情を十分に考慮して地域の声を尊重しなさいと、住民の理解を得た上で進めていくべきです、というようなこともこの提言ではなされてございます。あと 1 番最後のところの 7 番目のところにはですね、施設整備の視点ということで、ただ、そうは言っても財政状況といったところも考慮しなければ適正配置、財政のその辺のバランスをとった中で検討する必要があります、というような提言も頂いているというようなことでございます。

以上がこの 25 年にそれぞれの P T A の方々、学校の校長先生方、自治会の方々に集まっていたいて、これからの洞爺湖町の子どもたちの在り方、学校を考えるとときには、こういったことを要素に検討して、学校の適正配置をやっていきましょうというような提言がなされてございます。これが平成 25 年になされまして、翌年に虻田、洞爺湖温泉中学校が適正配置計画に基づきまして虻田中学校に統廃合というような結果をしてございます。その時にも、温泉小学校だとか洞爺のほうの学校も、協議にはなったのですけれども、まだ複式にはなっていないとかですね、そういったことからその時にはまだ見送られているというような状況になりますが、これもできてもう 10 年近く経ってきておりますし、子どもの状況も変わってきているというようなことを踏まえていくと、少し検討する時期に来ているのかな、というふうに事務局としては思っておりますので、今回の答申や、諮問に合わせてご審議頂ければというふうに思っております。

以上が、(3) の子どもと洞爺湖町の小・中学校における子どもと学校の在り方についての提言に書かれている内容でございます。以上説明は終了させていただきます。

○鈴木会長

今事務局のから平成 25 年、今から 10 年前の洞爺湖町の学校の在り方についての提言、ということで、適正配置であるとか、通学時間であるとか、予算的なものも含めてというような話で盛り込まれているという説明でありましたけど、今回、実際に視察に行ったり、先ほどの維持管理コストの関係で、町内の施設関係も含めていろいろ議論ありましたが、今の在り方についての説明で確認したい点、または、こういう視点で整理していった方がいいじゃないかとか、こういう方向性があつたらいいじゃないかとか、何かお考えがあれば、あわせてお出し頂ければと思いますけども、いかがでしょうか。

○委員

来年の生徒数は何人ですか

○高橋教育推進課長

来年度は、前回の資料で「洞爺湖町の教育」ってお配りしたと思うのですが、これの 11 ページに、令和 5 年 5 月 1 日現在の児童生徒数というのは載っております。人数は分かるかなと思うのですが、来年度の入学数はちょっと今は把握してございませんので、次回までに示したいと思います。

○鈴木会長

適正配置を考える視点っていう 7 ページになりますけど、このあたりで、学級規模というのは当然児童生徒数の数によって、というのは当然ありますので、多分この後、将来的に児童生徒数がどうなるのかってあたりは、どうぞ

○委員

小中一貫になる場合、虻田小学校は噴火のハザードマップには入っていない状態ですか、入っているのですかね。

○高橋教育推進課長

虻田小学校は入ってないです。

○委員

受入れ先の学校を、今後きちんと維持修繕を一層強化していくっていう方向にもなっていて、ちゃんとなっているのですかね。それとも、今後またどうなるか分からないからといって、例えば雨漏りだったりとか、いろんなことがまた中断していくんですかね。今後の流れがどうなのかなっていう

○高橋教育推進課長

虻田小学校に関してということですか。

まず、虻田小学校に関しては、虻田中学校の生徒の安全確保という形で、移転させますと。そのときには余り大きなお金をかけずに、最低限のところというふうを考えてございます。そして、虻田小学校も大規模改修というようなことを、やっていく時期に来ています。それが多分結構なお金がかかってくるのですが、それをどのタイミングでやるってことになるのかってところは、まだそこまでの計画っていうのは立ててはいない状況です。学校の適正配置というような考え方が決まらなければ、ちょっと手をつけてしまって、いや、やっぱりもうちょっと直さなかったらならない、とかってというようなことがあると、少し後戻りする形になってしまいますので、その辺の部分を今回の審議の中でもいろいろしていただいて、方向性が出た上でこういうような形でやっていきたい、というふうに考えていこうかなと思っています。今現在、取りあえず入れるよう必要最低限の修繕はしますけれども、それ以外の大規模な改修をするというようなところは、まだ基本的な計画の中には入っていないです。

○委員

その例が一つあれば、洞爺地区の人たちも何となく、イメージできると思うんですね。小学校と中学校が一緒になって、こういう感じになりました、安全になりましたっていう例があれば、洞爺地区も統合してもいいねとか、やはり統合は嫌だねとかって、想像できると思うんですけど、今どっちの小学校も中学校も古くて、雨漏りとかトイレがどうだとかって言うてる状況で、どうしますかって言っても、なかなか、話は進まないんじゃないかなと思うんですけど。

○高橋教育推進課長

学校の校舎が古くお金がない、人口が減ってくるっていうのは、言ってしまうと全国どこでも同じような事例というのがあるのですよね。そこで、洞爺湖町での事例はないですけども、他の町ではどういうふうにそれをクリアしてきたのかっていうものは、実は次回以降皆さん方に提示して、うちではどのようにやったらいいかという参考資料を提示していきたいなというふうに思っていました。他の先進事例ではこういうふうにやりました、とかっていうようなものが公表されているのもありますので、その辺は次回以降示していった審議を深めていただければというふうに思っております。

○鈴木会長

今のそのハザードマップって、要するに自然災害も含めた、洞爺湖町ならではの視点みたいなものを一つ入れておいたほうが、今後地域住民の方々にもしっかりと受け止めていただくというところの一つかと今委員の話を聞いて思ったので、やはり 30 年前に有珠山噴火してっていうのは大体周期が同じようなサイクルっていう話もありますので。

それに当然子どもの数とか、どこに予算をかけるかという、そういうようなことのバランスも含めた在り方の審議といいますか、10 年前につくったこの提言の中にそういう要素が入るのかどうかというのもあると思うのですけども、その辺りはすごく今の話聞いて大事な要素かなと感じました。

あと、どうでしょうか。この提言について何かお感じになるものとか、今お考えになっているものでもよろしいですが。

○委員

この、子どもと学校の在り方についての提言で、地域ごとに小学校がどうする、合併するとかしないとかって話があるんですが、究極の姿で洞爺湖町で小学校一つ中学校一つ、あるいは小・中学校一貫校 1 校だけということではなくて、やはり地域の人の意見としては、洞爺の地区には学校は必ず残す。そういう考えがまず基本にあるという前提でいいでしょうかね。それとも、洞爺の地区の方が小学校、中学校から虻田の町に、温泉はね、もう既に中学校で通っているからいいですけども、相当遠いですよね。プールだけでも大変だという中でいったら、洞爺の地域は残すというのが大前提と考えていいものでしょうか。そこら辺はこの検討会の中ではどういうふうになってますか。

○高橋教育推進課長

はい、学校を町内 1 校にするのか、1 か所ずつ残すのか、というところの教育委員会としての基本的なスタンスはまだ持っていません。この審議の中で、小中一貫教育で義務教育学校とかっていう形でも諮問をさせていただきまして、小中一貫教育をやるとなると、最終的に校舎はどうなるんだっていう話にはなってくるんですよ。であれば、洞爺でやるのであれば作るのか、それとも作るだけのお金があるのかどうなのか。虻田であれば、一つにすることによってどんなメリットと、あとは当然地域の状況も出てきますので、どのような形がこの町にとって 1 番いいのか、子どもにとって 1 番何がいいのか、というところの視点が大事なのかなと思うんですけども、それを踏まえてこの中で、まさにそこを審議していただきたいなというふうには思っております。教育委員会として、1 校ずつ残すというのが大前提とか、何が何でも一つにするとかっていうようなことの方針は今持っていないので、この審議の中でこうあるべきではないかと、当然それが地域に説明したときには、いろんな反対の声も出ると思いますし賛成の声も出ると思うんですけども、そこ町が今度は長く地域の方々と協議を進めていく必要があるんで、この審議会の場ではどこどこを統合するとか、そういうことじゃなくて、こういうような方向性でやるのがいいのじゃないでしょうか、というようなことにしかならない、とちょっと私は思っています。

○委員

地域の方がどう思っているかを聞きたかったんですよ。

教育委員会が考えてることよりも、地域の方が 1 番最初に意見を言って、こうしたいああしたいっていう、それが大事なような気がするんですよ。

○委員

地域の私たちの年代の人たちの考え方は、やっぱり文化薫る洞爺っていうことでね。教育を主にして、地域住民が一つになるっていうことをずっと貫き通しているのも、その影響が最近出てきて、若い人たちが移住してきて、多分子どもも増えてますし幼稚園も増えてますし、学童も満杯です。現実はどうなってるかっていうことを町のほうで把握して、そういうことがやっぱり基本になるんじゃないかなと思ってるので、その点よろしくお願いします。

○委員

H30 年から、洞爺町は今さっき委員がおっしゃられたように移住者が来て、虻田は減っていく。その傾向も多分そのまんまじゃないかと思うんですよ。10 ページの 6 番、地域性の視点の「地域の声を尊重する」とことと、7 番の施設整備の視点の「総合的な検討」、ここって多分すごく重要で、泉 房穂市長でしたっけ、ああいうすごい市長が来ると、一気に財政を教育に持ってきちゃってという事も起きるのだろうと思うんですけど、そのときにやっぱり地域がどういうふうを考えるか、地域住民の意見を代表する団体とかは今はないと思うんですよ。学童の話ですごく象徴的なのが、とうや小学校は 30 人か 40 人いて満杯なんですよ。今僕はさわやかなの別館で子ども食堂をやっていて、隣が学童なんですけど、学童は土曜日 1 人いるかいらないかなんですよ。なので、虻田小の児童数はとうやの 3 倍ぐらいいるんだけど、学童はいないっていうのは地域性や教育、あと学童の方針もあると思うんですけど、洞爺と温泉と虻田では色が違うとおもいます。その違いがある所で、どこを洞爺の教育なんだっていうことを誇りを持って言えるようなものを作っていくかと考えたとき、地域住民の声や思いというのがもっとここに出てくるような、形になるといいのかなと感じました。

○鈴木会長

地域の声っていうのが出ていきますけど、このあたりについて事務局はどういう受け止めになりますか。

○高橋教育推進課長

地域に話をする際に、こういうようなことでっていう、何らかの一定の方向性がなければ、学校どうしましょうかっていう形でお話ししても、なかなか難しいのかなというふうに思っております。それで、こういう有識者の方々に集まっていただいて、ある程

度こういうような方向性で学校教育を進めていったほうがいいよと、学校を含めて教育施設の在り方とか、そういう部分を進めていった方がいいという、審議の答申を得てですね、こういうような方向を持って地域と相談するっていうほうが、その中で地域のいろんな声を聞きながら、じゃこういうのはどうでしょうか、というようなこともやっていくというようなイメージで、今回この審議会というのを作っております。何もない中で地域の声を聞いて、教育委員会の考え方は、というふうに言われても、教育委員会が考える教育委員会、町としての答えを出す方向性を示すのに、皆さん方のほうから答申を頂けたらな、という形で今回の審議会を設置してございますので、今の状況で地域のほうに教育委員会が行って、学校はこうあるべきなんですけど、というようなことはまだできないのかなと思っております。ある程度の考え方を示した上でつくるのかなと。

これまで、去年もいろいろと地域別教育懇談会ということでざくばらんにお話を聞かせてくださいと言っても、教育委員会の考え方を示した上でなければ、なかなか聞かれてもわかんないよね、っていうような声もあるんです。そういうことも踏まえてちょっとこういう形を今回取らせていただいたというふうに認識しております。

○委員

何かそれもったいないような気もするんですけど。洞爺湖温泉でも有珠山噴火後に小学校が被害を受けて、小学校を移転するとかそういう話があったとき、実は役場のほうから小学校を中学校のところにして、中学校を新しく移転するとか何とかっていう、そういう、上から話が上がってきたときに、町民がそれよりはまず自分らで議論しようって言って、町民が洞爺湖温泉の小学校中学校を考える会っていうのを勝手につくっちゃって、懇談会をしましょうって言って文化センターでみんなでパネルディスカッションみたいなことをやって、町民の意見を先に、町関係なしにとりあえず意見出しましょうってやったんですよね。そういう意見を出し合う機会があったから、こういうアイデアがあったっていう、それぞれ町民がみんないろいろあって、その上で最終的にちょうど教育委員会と決めてこういう方向になるけどどうだろうか。そういう段階を踏んで小学校を月浦に持っていく。その時は様々な意見が町民から出てたんですよね。ただ、それぞれ一長一短、メリット、デメリットがあるからって言ってパネルディスカッションを町民が自ら主導してやったっていう、そういう意味でいけば、それがあったから、スムーズに月浦小学校に持って行って、それが結果としてよかったかどうかは別けども、町民の意見を、上げていけたっていう機会になったんで、それと同じようなことが、洞爺地域の有志の方々が集まって、勝手にでもいいからこう考えたんだけど、というのをやってくれると本当はいいような気もするんですけどね。

○委員

給食センターのときにそれは洞爺地区であったんですよ。住民だけではなくて、行政

の方々も入れた上で、進んでいったんですよ。それで給食の検討委員会も、町でもって、こうしょうってなったんだけど、結局進んでないっていうか。これ見たら、現状維持により運営ってなって、あの時間は何だったんだろうって、今ちょっと私は給食センターに関してはちょっと思うところがありまして、せっかく住民と、行政と話し合っても、やっぱりお金の部分かな、ちょっとここは分かりませんが、要は行政のあれでストップしてるんでしょうから。何かみんなで話し合っても答え出しても進まないことってあるんだっていう、何か結構地域住民は残念に思っている例が直近であって、住民のしてほしいことは進めてほしい、っていうのはすごくあります。

○委員

我々のときはこれに決めると、いうことではなくて意見をみんなで吐き出し合う。吐き出した上で、結果こっちになったって言っても、それはしょうがないねって、はき出すはけ口に、それによって、こういう考え方の人がいるんだっていうのが隣にいたりとかなんかして、その中で後は町がその中のこれがメリットあって、それで決めましたってやれば、民主主義だから納得するかっていう、そういう意味。だから、私が実際にそのときはもう、中学校を廃止したほうがいいんじゃないのって。そして今、虻田と合併しちゃったけど、いろいろな意見があった中で、多分みんながそうやってきて、ただ意見を言えたことがすごい納得感があつたんですよね。

○委員

結構すごいいろいろ言って、そういう場持ってくださったので感謝はしていて、何かそういうのがいい方向に行けばいいなと。

○会長

ありがとうございます。

結局は、諮問を教育長から受けて、我々委員がどういような答申を盛り込んでいくのかっていう、ある程度それが一つの方向性として、この後事務局のほうから地域の方とのやりとりっていうのが出てくると思うので、ぜひ今の話は、答申に入れていくようなものであってもいいのかなと感じました。

このあたりはまた事務局から出てきたものを含めて皆さん方で審議できればと思います。今出た話を事務局にも継続させていただきまして、この提言についてはこれで終わりたいと思います。

それでは、次第 4。洞爺湖町の公共等総合管理計画についてということで、事務局から説明をお願いいたします。

○藤岡企画財政課長

企画財政課の藤岡と申します。この先の議案については、私のほうから説明させていただきますのでお願いします。

公共施設の管理計画という冊子をお配りしております。これに基づいて説明させていただきます。先ほど教育施設の説明がありましたけども、公共施設総合管理計画は、洞爺湖町の公共施設全体の計画になっておりますので、この中に教育各学校だとか、そういった教育施設も含まれるような計画になっております。国が全国の市町村に施設の長寿命化の計画っていうのを各市町村、都道府県に作りなさいということで、洞爺湖町も平成 28 年につくって、それを令和 4 年に改定したのがこの冊子になっています。

3 ページをご覧ください。施設の分類カテゴリーですね、その中に、1 番から 9 番まで、3 番目に、先ほど説明あった学校教育施設、小学校だとか中学校とか給食センターも入っております。この 9 つの施設、これ全部で計画上は 234 の施設が載っているんですけども、その建築年度、経過年数、その施設を今後どうするべきなのか、という方向性をある程度示した計画になっております。それぞれちょっと詳しく説明すると時間がなくなりますのでこれは割愛しますがそういった計画です。

次に 8 ページをご覧ください。いただきたいんですけども、先ほど言ったその施設の分類を 9 つに分けていると説明しましたけれども、やはり洞爺湖町の施設で 1 番割合が大きいのは 2 番目の公営住宅、これが 39%を占めております。次に多いのが 3 番目の学校教育施設が 15%を占めているといった中で、学校関連に関しては、町内で 2 番目に多いというような状況になっております。いずれにしても、この計画については、公共施設が学校関係だと、耐用年数から相当経過しているとか、町内の公共施設の老朽化、これが洞爺湖町でも、学校だけじゃなくて、集会場や体育館、そういった公共施設の修繕で相当経費がかかっており、財政を圧迫しているような状況になっております。それから人口減少、そういった財政が逼迫する中で、公共施設をどういうふう考えていくか、未来を担う子どもたちに大きな負担を残さないというような考えのもと、公共施設の在り方というのを計画的に考えていきましょう、ということで、位置づけたものがこの計画になります。

この個別の各施設については、後ほどをご覧ください。いただけたらと思いますけれども、234 の施設の内訳がそれぞれ載っておりまして、その建物の施設の方向性、令和 4 年段階での町の考え方について、この建物は長寿命化しますとか、施設はもう廃止しますとか、いろいろ載っておりますので、後ほどご覧に頂けたらと思いますけども、学校に関してはですね 30 ページ、になります。令和 4 年 3 月にこの計画を改定した段階での役場としての考え方の方向性は、30 ページの 1 番の虻田小学校から学校の給食センターまでということで、長寿命化とか検討中とか出ておりますけども中身については、例えば虻田中学校はこの計画書現段階では長寿命化となっておりますけれども、今の教育委員会の話では、令和 8 年度を目途に小学校へ移転したらどうだろうか、というような案も持っておりますので、この計画についてはまた、見直しをその都度、年々ローリングし

ながら、更新していきたいと考えております。いずれにしても、洞爺湖町の公共施設の面積の割合が、先ほど 234 の施設と申しましたが、これの総床面積は約 15 万㎡あるんですね。町民 1 人当たりになると 17.5 ㎡なんです。全国の自治体の抱えている公共施設の 1 人当たりの面積が、3.4 ㎡なんです。いかにこの洞爺湖町が公共施設の割合が多いか。これを全国平均にすると、洞爺地区、洞爺湖温泉地区、虻田地区とそれぞれの地域で洞爺湖町の特殊性というはあるかもしれないんですけども、全国の自治体に比べて、現段階で 1 人当たりの床面積は 5 倍という状況で、これを今後、そのまま改修したり更新したりすると、試算をざっくり出したところによると、この 10 年間で 160 億円の経費がかかります、というような試算も出ておりまして、ランニングコストも含めると、今ある建物をそのまま維持していこうとするとですね、200 億円かかるという試算が出ております。洞爺湖町の財政規模からすると、やはり財源が豊かであれば新しく建てかえができれば、町民の皆さんに新しい居心地の良い施設で、学校とかも生活してほしいと思いますけども、こういった状況を含めると大変厳しいというような数字上は出ておりますので、この公共施設を洞爺湖町全体で町民の皆様とどういうふうに実施していくのかというのを、真剣にこれから考えていかなければならないと思っております。公共施設の総合管理計画については、以上であります。

○鈴木会長

管理計画ということで、洞爺湖町として、こういうような状況だということの説明がありましたけども、いろいろ地域の方との関わり方が出てくるっていう、そういう捉え方でもよろしいですね。

そんな形もあるということですけども、この計画について何かご質問、ご確認したいことはございますか。

《なしの声》

それでは、次に、洞爺湖町の将来人口ということで式次第の（5）にありますけども、この説明をよろしくお願いいたします。

○藤岡企画財政課長

次に洞爺湖町の将来人口についてということで、1 枚もののプランの上で人口の推計を出した表がありますので、そちらをご覧くださいと思います。

これは、国立社会保障人口問題研究所というところが、全国の市町村都道府県、市町村の人口の推移を出している数字で、これを使って洞爺湖町の人口推計が将来どのような人数になっていくのかというのを表にしたものであります。平成 18 年の合併と旧洞爺と旧虻田が合併したときの人口は 11,431 人でした。今年の 1 月末現在で、洞爺湖町の人口は 8,044 人となっています。合併時から見て、3,099 人が減少しております。

表の中のグラフを見ていただくと、令和 7 年の一応見込みではですね、7,443 人にな

ります。8,000人を切るだろうというふうに見込まれております。その内6,500人程度、高齢化率は49.9と書いていますけど、約50%、2人に1人がもう65歳以上になりますという事で令和7年には5,722人ということで、どんどん人口は減少していくだろうというのが、社人研の推計で見込まれているところです。中でも高齢化率っていうのは自然減もあるので、どうしても生まれてくる子どもの数も少ないですし、その分高齢化率は高くなりますけれども、やはり、1番懸念されるのが子どもの数、人口もそうですが、子どもの数が平成27年には823人15歳未満の人口がいたのに、令和7年には486人になるだろうというように、どんどん子どもの数が減少していくというのが見込まれておまして、令和22には300人を切るだろう、というような推計がなされています。これは一極集中している東京首都圏のほうでは人口が伸びていますが、地方に行けば行くほども、人口減少というのは、どんどん過疎化が進んできております。洞爺湖町も働く世代の子どもがいる家庭の転入を促進しようとして、子育て支援にはいろいろ力を入れております。出産の祝い金、小学校・高校の通学費、中学校の制服等いろいろ手厚い子育て支援をしておりますけれども、やはりそれでもどんどん人口は減少していくような大変厳しい状況になっておまして、やはりその5年後とか10年後を考えて、子どもが学校生活を送るにはどうしたらいいのかなとか、学校はそれぞれの地域にあったほうがいいのだろうかとか、一つにしたほうがいいのだろうかとか、長期的な人口ビジョンで見たときに、子どもがどうしたら学校生活を送っていけるのかなと、これを数字で見る限りでは、やはりその少人数教育とかの弊害とかも非常に懸念されるところでもありますので、その点を踏まえた中で、各委員の皆さんには人口の問題も含めた中で、学校の在り方っていうのを検討していただけたら、というふうにも考えておりますのでよろしくお願いいたします。

○鈴木会長

説明頂いたのは、人口減少ということで、いわゆる国の出している数値をもとに、洞爺湖町はどうかということの、ある意味機械的な数値という形なので、どうなるかには幅があると思うのですが、ただ現実的にこういう数値が出ているということを受け止めていただくことは非常に大事かと思います。

それではこれに伴う財政状況ということで、かなり厳しくなるのでしょから、このあたりの説明もお願いいたします。

○藤岡企画財政課長

次に財政状況についてということでまた別の表を、ご覧頂けたらと思います。

洞爺湖町は、旧洞爺村と旧虻田町が合併して、平成20年の決算に財政の健全化団体になっています。夕張市に次いで、全道で2番目に財政状況が悪いということで、一時財政健全化団体になったというような過去があります。平成23年度に健全化団体を脱却し

てから、徐々に歳出を抑えながら、今現在財政状況、財政運営を図ってきているところですが、すけれども、また大変厳しい状況になりつつあります。というのは、やはり先ほど説明した人口減少、これが1番大きいです。

まず、1 ページ目の歳入を見ていただくと、自主財源と依存財源に分けて町へ入ってくるお金を分けています。皆さんから納めていただく税金がどれぐらいだろうかを見たときに、自主財源になりますけれども、真ん中ほどにありますけれども、令和 5 年度、今現在の状況につきましては、見込みとして 1,239,000 千円ほど、率にして 15.6%、すいません、4 年度で見てもらったほうがいいですね。4 年度は決算額なので、実際の実績です。5 年度はまだ決算見込みになっていますので、4 年度の状況で説明しますと、町税については 1,180,000 千円ほど、率にして 14.5%が、皆さんから納めていただく税金の割合になっています。1 番大きいのが依存財源、青の表になります。その中の、地方交付税であると思うんですが、これはよく皆さんもお聞きになるかと思うんですが、国から入ってくるお金なんですね。不交付団体と言われる東京都だとか、あと北海道で言えば泊村だとか、国の地方交付税入ってこない団体もありますけれども、全国のほとんどの市町村がこの地方交付税を受けた中で、財政を運営しているような状況です。洞爺湖町の R4 の状況で見ますと、この交付税が 45.4%の割合になっています。ほぼ半分。地方交付税は国の動向に左右されますので、他力本願というんですかね、あくまでも国の経済の動向に大きく左右されるような財源になっております。この交付税が何によって措置されるかという、1 番大きいのが国勢調査の人口がベースになります。町民 1 人当たり幾ら、国勢調査の人口を今ちょっと持ってきてないですけど、その前のときには 8300~400 人程度、交付税を今その人数で受けています。これが来年国勢調査ありますけれども、令和 7 年から新しい人口で、交付税が交付されることになるんです。先ほど人口の推計で見たところ 7 年の人口は 8,000 人を切って 7,443 人になるだろうという社人研の推計がされていますけれども、交付税はこの 8,000 人を切るか切らないかが非常に大きくて、8,000 人以下の町は一つの村っていうんですかね、2,000 人、1,000 人の村と同じような財政団体として扱われるという、非常に厳しい瀬戸際の状況でありますので、何とか次の国勢調査の人口 8,000 人をキープしたい、というところで考えていますけれども、今現在 1 月末で 8,044 人ですから、非常に見通しとしては人口も厳しいことになるのかなというふうには思っています。

次に 2 ページ目が交付税の推移。1 番歳入の中で大きなウエイトを占めている交付税、これが命綱というかですね、額によっては、町の財政運営が非常に大きく左右される財源ですので、人口のベースになるものですから、そこも人口が減少することによって、少しずつ年々少なくなるだろうというところが見込まれるところです。

次に 3 ページめくっていただきますと、歳出になります。そういった中で、人口が減少する中で、歳入の見通しが年々厳しくなる中、歳出はどうかという、これは逆に増えてきています。増えてきている理由というのは、先ほど言った町の公共施設の数が全

国の平均に比べて 5 倍の床面積がある。それにかかる維持補修費、ランニングコストがかかっている。そこに携わる人の配置、人件費が増えています。あと 65 歳以上の人口だとか、高齢者や障害者にかかる扶助費も少しずつ上がってきている。公共施設の修繕関係が増えてきている中で、今、公債費、借金の割合ですね、これも一時期はよかったんですけれども、ここ最近少しずつまた右肩上がりではないですけど、緩やかに借入れの額も増えてきている中で、公債費を返さなきゃならないお金というのも増えてきている状況になっております。令和 4 年度の状況で見ますと、3 ページの歳出のところですけど 7,885,000 千円。令和 3・4 年はコロナ関連の予算がありましたので、ちょっと財政規模、予算規模大きくなっておりますけども、下の四角内に書いています類似団体でいくと 6,780,000 千円ほどで、1,000,000 千円ほど高い数字になっています。これも、洞爺湖町の特殊性というか、虻田の本町地区、洞爺湖温泉地区、洞爺地区の 3 地域がそれぞれ、産業工場も分かれておりますし、それぞれの地域の特殊性もあることからですね、経費はほかの市町に比べて非常に大きいのかなと考えております。

次の 4 ページの財政状況について、今後の見通しです。今後の見通しは、人口減少もある中で、交付税が減る、税収が減る中で、令和 5 年度今予算、これから 3 月の議会で当初予算を議案に上げますけども、一部、ここ最近ではですね、歳入と歳出の差が、当初 2,200,000 千円あったんです。これは今までずっと見てきた中で過去最大の歳入と歳出の開きがありました。それだけ、歳入はどんどん減ってきている中、各課の予算要求である歳出は増えてきているというような状況で、どこをどう節約するのかとかを考えながら、今回の予算をなんとか組んだところですけども。組むに当たって、今の見通し、その 4 ページ出ていますけども、これからは赤字が続くだろうと思われれます。赤字が続くというのは、令和 5 年度でもこの 50,000 千円ほど、それから、令和 6、7、8 と 300,000 千円～400,000 千円ぐらいが収支不足になるだろうと、推計をした中で見込まれている大変厳しい状況です。

赤字はどこで埋めるのかというと、次の 5 ページ目の町の貯金ですね。基金。これを取崩しながら、今後財政運営をしていかなければなりません。町の体力を見るのに、どこの基金を見るかというと、この財政調整基金という基金を各自治体みんな持っているんですけども、それが幾らあるかっていうのを見ると、町の体力を見ることができます。今、洞爺湖町は R3 のところに青の数字で 12.6 って書いていますけども、1,260,000 千円の財政調整基金を持っています。令和 4 年度は、これを取り崩さないで何とか財政運営ができました。令和 5 年度以降は年々減っていきます。令和 8 年度の見込みですけども、約半分に財政調整基金を取り崩さないと、財政運営を図れないというような大変厳しい見込みも出ております。これでいくと、将来的にはこれがゼロになると、ゼロになったらどうなるのかというと、いざという時、例えば噴火した時にこの基金を持ってないと、財政運営もできなくなる。困った時に、貯金がないっていうような大変厳しい状況になりますので、まずこの財政調整基金をバロメーターとして、この基金を、次の

噴火に備えて、計画では 1,000,000 千円を何とか残しておこうと。前回の噴火の時は、北海道から 1,000,000 千円借りて、そういった借入金の原因で健全化団体にもなりましたので、この町のやっぱり財政調整基金 1,000,000 千円は何とかキープした中で、次の噴火に備えたいってところが、財政サイドとして考えております。今の段階では、歳出が増えていく見込みの中で、この財政調整基金を取り崩さないと財政運営ができないような厳しい状況にあるというところを分かっていたらと思います。

次 6 ページ目が、地方債の残高借金の割合です。この借金も年々減っていったんですけども、これの減りが鈍くなってきて、保育所の建設もこれから始まりますけども、そういった施設の修繕だとか、そういった維持管理にかなりお金がかかっている、そういったところでの公営住宅の長寿命化ですとか、道路のインフラ整備だとかの借入額が最近大きくなってきておりまして、借金の割合も少しずつですけども、増えていくような状況になっております。これは令和 8 年度までの事業を見込んだ中で、グラフの借金の割合残高を出した数字になっております。令和 4 年度の状況では、7,800,000 千円の借金残。これが令和 5 年度は 7,590,000 千円、令和 7・8 年あたりが非常にピークになってくるのかなというところで考えております。

次のページ。7 ページは、実質公債費比率と将来負担比率の推移というグラフになりますけども、これは借金の割合です。実質公債費比率、それから将来負担比率っていうのは将来どれだけ借金を返済しなきゃならないのかっていう比率ですけども、この財政指標が、さっき言った健全化団体になるのか、ならないのかというようなところで国に判断される数字になっております。この実質公債費比率が 25%を超えると、財政健全化団体というのになります。令和 4 年度の決算の状況で申し上げますと、実質公債費比率については 10.4%。これは 3 か年の平均の数値ですけども、これが少しずつ健全化団体になる予想はしてないですけども、これから少しずつ、実質公債比率負担比率ともに、上がっていくだろうという、厳しい見通しというのが出ております。この数値を見ながら、財政運営を図って二度と健全化団体とか、同じ失敗はしないようにということで、将来的な見通しというのも、考えながら財政運営を図っていかなければならないと考えております。

最後になります 8 ページ。やはり歳入が減り支出が増えていく、見直しも図られないという、いずれ破産するのは目に見えていますので、そこで行財政改革っていうのを進めていかなければ、これからの洞爺湖町の将来というのはないのかなと思っておりますので、やはり一般会計を普通の家庭に例えると、今まで 30 万収入あったものが 20 万に減ったら、当然使うお金も今まで 30 万近く使っていたのを 20 万に切り詰めなきゃならない。どこを見直すか。食費を減らそうかだとか、貯金を少し減らさなきゃ駄目だね、とか考えると思うんですけども、町の財政もやっぱり同じような考えで進めていかなければ、入ってくるお金が限られて減っていく中で、使っていくお金は今までどおりでいいよね、っていうようなことにはなりませんので、行財政改革っていうのは必ず進めて

いかないといけないのかなというふうに思っています。その中で、こういった取組をこれから洞爺湖町として進めていくかという時に、まず、依存財源に頼っているような状況です。先ほど申しましたように、5割程度が交付税頼み。自主財源をどうやって稼いでいこうかというところです。町ではふるさと納税を強化しておりますけども、少しずつ延びてきていますけどもなかなか厳しい状況です。あとは持っている土地、遊休財産を処分して売り払っていかうだとか、企業とタイアップしていかうだとか、今ある貯金を債権で運用しようだとか、どうやって自主財源をこれから増やしていこうかっていうことを考えていかなければならないと思います。それから、歳入の見通しとしては施設の使用料だとか、滞納している税関係未収金だとか、そっちのほうをいかに回収するかというところもを考えていかなければならないのかなと思っています。この施設の使用料については、合併後1回も見直したことがないんです。この間、消費税も上がっている中で、ここ最近の電気料金の値上げだとか、物価だとかの影響もあって、この施設の運営費が相当かさんでいる状況の中で、やはり町民の皆様というか、施設を使用させていただくにあたっての負担の在り方を、もう1回相談させていただいたほうが良いのかというところも考えなければなりなないと思っております。それから、業務のスリム化、人口規模に対して財政規模が大き過ぎると書いていますけれども、先ほど言ったようにその施設面積がまず5倍。普通の類似団体と比べて、それにかかる財政投資も大きくなっている状況の中で、いかにして業務のスリム化、あとは適正な人員配置を図っていくか、という中で、公共施設の複合化だとか集約化も含めた中で、今後のマネジメントを図っていかなければならないとで、これからの洞爺湖町の財政状況は厳しくなるだろうというところを考えております。

以上でございます。

○鈴木会長

はい、今、事務局のほうから、厳しい財政状況であるとか、人口減少の問題であるとか、維持管理の話がありました。

最後になるんですけど何かお気づきの点とか、何か一言、各委員からあれば、お聞きしたいと思います。

《なしの声》

それではですね、本日長丁場になりましたが、現状のお話を頂きました。各位しっかりと理解しながら、今後どういう方向で、最終的に目の前の子どもたちのためにどうあるべきか、ということはこの諮問を受けて、このメンバーで答申という形で整理していかなくちゃいけないということもありますので、ぜひ、次回の会議の中でご意見いただきたいとおもいます。

その他ということで各委員から何かありますでしょうか。

《なしの声》

○高橋教育推進課長

次回の会議予定でございます。

次第にも記載しておりますけれども 5 月の開催を予定しております。審議内容につきましては先ほど少し触れましたけれども、こういった、お金がない、人が減っていく、施設が古いというのは、全国どこにでも共通している案件でございますので、先進的な町村ではこういうふうにして、教育施設をクリアしました、とかっていう事例紹介をしながら、審議を深めていけたらなというふうに思っております。

以上でございます。

○鈴木会長

今回は、事例紹介ということなので、ぜひ各委員のほうからもいろいろ見聞きしたものがあれば、事務局のほうにも入れていただきながら、全体で共有しながらですね、何かいい形での方向性をこの後の投資に向けてですね、準備できればと思いますので、よろしく願いいたします。